

1976年開設
文学部 総合文化学科



2025 新カリキュラムSTART

決めるのは今じゃなくていい

迷った分だけ
偶然のチカラに出会える

文学部

総合文化学科



『気になる!』から学びを広げる 【興味関心】×【学問分野】の学び

例えば ジェンダーレス



教育学の観点なら

いま学校では、性別にかかわらず、制服を自由に選択して組み合わせられるジェンダーレス制服を導入する事例が増えています。ジェンダーレス制服が学校で導入された背景を考えてみましょう。

社会学の観点なら

性的マイノリティの人が抱える生きづらさを、個人の問題だけでなく、社会にある差別や偏見の影響として捉えます。誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて学びを深めましょう。

法学の観点なら

トランスジェンダー女性が勤務先で女性トイレの使用を求めた裁判があり、最高裁は全員一致で原告勝訴の判決を下しました。裁判の内容や判決のポイントを深掘りしましょう。



例えば 物語



宗教学の観点なら

キリスト教の聖典である聖書の有名な場面の多くが「物語」の形で記されていることを知っていますか？なぜ聖書は「物語」として語られているのかを考えてみましょう。

文学の観点なら

小説や漫画、ドラマや映画など、物語への興味は文学の学びの入口。語りの工夫や背景にある文化・社会を読み解くことで物語をより深く味わい、自分の視点で深く考える力を鍛えましょう。

芸術学の観点なら

絵画や彫刻や舞踊は、言葉を用いない沈黙の芸術ですが、物語をベースとする作例も多くあります。沈黙においてこそ露わになる特殊な物語性を分析し、その意義と可能性を導いてみましょう。



例えば 旅



歴史学の観点なら

秘境の地だった熊野への参詣が平安時代に大流行。ブームの背景には、浄土を求める宗教的熱狂がありました。歴史上の事件や出来事はなぜ起こったのか、その背景を探りましょう。

社会学(メディア論)の観点なら

「旅行」は日常を離れて過ごす余暇の1つとされますが、「旅」は「死出の旅」や「旅立ち」など、非日常とつながる言葉として使われます。「旅」が「旅行」に変わる構造や背景を紐解きましょう。

哲学の観点なら

「旅」の本質とは「居場所」を離れて「他所」へ赴くこと。だから「旅」には「根を失う不安」と「出会いの歓び」が伴うのでしょう。哲学を通して「旅」がもつ「意味」について考えてみましょう。



例えば 推し活



経済学の観点なら

好きな人やキャラクターにお金や時間を使い、自己満足度を高める「推し活」は、消費のあり方や情報の伝わり方を変え、経済を動かしています。「推し活」が経済にもたらす影響を考察しましょう。

文学の観点なら

『枕草子』には、女性たちが物語の登場人物のうちどちらが主人公にふさわしいか優劣論争をしている場面があります。当時の「推し」はどんな人物だったのか、古典文学から読み解きましょう。

日本語学の観点なら

「推し活」には日本語の変化や言葉の作り方を知るヒントが詰まっています。「推し」がアイドルを指すようになったのはいつから？「婚活」「朝活」との違いは？言葉の成り立ちを探りましょう。



／ほかに／

不登校

コミュニケーション

ヴィーガン

Y2K

プチプラ

恋愛

お笑い

ダイエット

など

「たったひとつの正解」にしばられず、多彩な学問分野によるアプローチが可能です！

視野を広げる学びが未来につながる 先輩のキャンパスストーリー

多角的な視野と、自分の意見を論理的に伝える力が身につく
幅広い学びが、進むべき道を見つけてくれました。

4年 I さんの場合



法学に興味があり、将来も漠然と法曹関係への就職を考えていましたが、法学部で法学だけを学ぶことに疑問を持っていたため、大学で学びながら将来の進路を考えられる総合文化学科を選びました。

社会学の学びを深めるため、家族社会学やメディア論のゼミを履修。共通英語の授業では英語の歌を歌う機会があり、最初は恥ずかしかったのですが、後期には「アラジン」を熱唱する度胸ができました。

グループワークの多い総合文化学科の授業は、さまざまな角度から物事を捉える力やどんな意見が出てても自分で整理し、考えて話す力が身につきます。親身に相談にのってくれる先生や仲間の支えもあり、興味のあること、関心のある学問を学んでいく先に、自然と将来の道が見つかりました。

入学時

1年次

2年次

3年次

4年次

卒業へ

戸江先生の入門ゼミで、社会学の観点から身近な「家族」をさまざまな視点で見る家族社会学のおもしろさに衝撃を受けました。この経験から4年生の現在も戸江先生のゼミを専攻しています。

メディアに切り込んだメディア関係の授業を多く履修。講義は問題提起のみで、原因探究は自分で考えたり、クラスメイトとディスカッションする機会が多かったです。新聞を読んで原因を探り、自分の思考を持てるようになり、情報に対して色々な視点から見る力が身につきました。

小学生時代に描いた医療系への夢が再燃し始め、オープン科目の「人体の構造と機能」を履修。就活も医療業界に絞り、内定を獲得しました。卒論では家族社会学の学びをもとに、ドラマのセリフや時代背景から「母親」の変化を検証・研究しています。



教職という夢に向かって好きな分野を究めながら
新しい興味・関心が広がる学びの豊富さが魅力です。

4年 F さんの場合



社会や歴史、特に奈良・平安時代と大正時代に興味があり、将来的に社会の先生をめざしていた私は、歴史を学びながら教職をめざせる総合文化学科を選びました。

史料から人や事柄を取り上げ、焦点を当てて行われる「日本史Ⅰ」「日本史Ⅱ」の講義。高校の教科書や資料では読み取れない人間味あふれる当時の人物像が浮かび上がり、とてもおもしろかったです。

知らなかった学問分野にふれ、色々な学びを経験したことで関連した気つきや視点をもてるようになりました。卒論では好きな歴史ではなく、就学援助制度という現代の課題をテーマに研究。大学生生活で広がった学びが新しいチャレンジを後押ししてくれました。

入学時

1年次

2年次

3年次

4年次

卒業へ

日本史しか興味がなかった私が初めてキリスト教にふれた「キリスト教概説」の授業が印象的でした。西洋を中心に紀元前の歴史や思想を学んだことで、外国の歴史もおもしろいと思いました。

3年次からは教職志望の学生は履修科目が重なり一緒に動くことが多いので、皆で和気あいあいとできてとても楽しかったです。教職の実践的授業も増え、教職必修の史料を講読する授業が1日に連続して続き、「漢文の日」ができたのも思い出に残っています。

母校の中学で実習させていただいた教育実習がとても印象に残りました。自分の好きな大正～昭和にかけての授業を任せていただき、授業準備や生徒の反応もすべてが新鮮で楽しかったです。

